

2021年度前期授業アンケートのサマリー

1 はじめに

平素は本学FD活動にご協力下さり有難うございます。標記の授業アンケート結果を、学生の成長度・満足度を上下させる要因を考察する形で纏めましたのでご参照頂ければ幸いです。今期は約7割の授業が対面形式で実施されました。アンケート評価の平均値・標準偏差に加え、学生の成長度及び総合満足度と各評価値との相関関係、さらに自習時間が長い回答者の中で総合満足度が高い・低い回答における受講の様子を深堀して分析しております。なお本集計には履修訂正・削除者が含まれ、大学院科目とゼミナールは含めておりませんので、末尾の参考資料を含む同種の集計資料と差異がある点をご了承下さい。

2 アンケートの回収状況について

今回は履修登録者延べ数85,150件に対し回答数が53,499件となり、アンケート実施率は97.5%、アンケート回収率は62.8%でした。期末のご多用な中、アンケートの回収にご協力下さり誠に有難うございます。授業アンケートはFD活動その他に関わる貴重な情報であり、引き続き回収率の維持・向上にご協力頂きたく、お願い申し上げます。

3 各設問の平均値・標準偏差

基本統計量における平均値と標準偏差を下表に記します。設問11の自習時間以外の各設問の平均値は4付近で、その±1に回答が集中しており、これらは毎学期ほぼ同じ傾向です。

表 各設問の平均値と標準偏差(独立した選択肢を持つ設問は除外)

No	質問文:教員の授業の進め方・熱意に関するもの	平均値	標準偏差
1	教員は、学生達が理解しているかを確認しながら授業を進行したと思いますか？	4.16	0.99
2	教え方について工夫がよくなされていたと思いますか？	4.18	0.96
3	板書やスクリーンに示された内容、配付資料は理解を深めるために役立ちましたか？	4.31	0.90
4	話し方は聞き取りやすかったですか？ (話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方)	4.27	0.96
5	学生の質問や作業・発表に対し、教員から十分なフォローやフィードバックがあったと思いますか？	4.17	0.98
6	受講マナーが守られるように配慮され、良い雰囲気のもと授業が行われていたと思いますか？	4.29	0.89
7	高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が伝わったと思いますか？	4.22	0.94
8	考え方や社会的視野が広がり、学習力や探求力の向上に得るところがあったと思いますか？	4.26	0.91
9	今後の学習や研究、また、将来の仕事の選択などに役に立つ内容であったと思いますか？	4.29	0.90
質問文:学生の意欲や達成感(振返り)に関するもの		平均値	標準偏差
11	この授業に関して授業時間以外に、事前・事後学習をどの程度学習しましたか？ (一週間平均。宿題や課題の実施時間も含む。)	1.09	1.04
12	この授業の内容は十分理解できたと思いますか？	4.06	0.92
13	シラバスに記載されている教育目標が達成できたと思いますか？	4.09	0.89
16	この授業を次年度履修する学生に勧めたいと思いますか？	4.20	0.98
質問文:総合評価		平均値	標準偏差
17	この授業によって成長できたと思いますか？	4.21	0.92
18	この授業は総合的に判断して良い授業であったと思いますか？	4.26	0.94

注:設問11は選択肢に該当する時間数を集計(5の「4時間以上」は4時間とした)

前述の平均値・標準偏差から、特に下記の傾向がみられます。

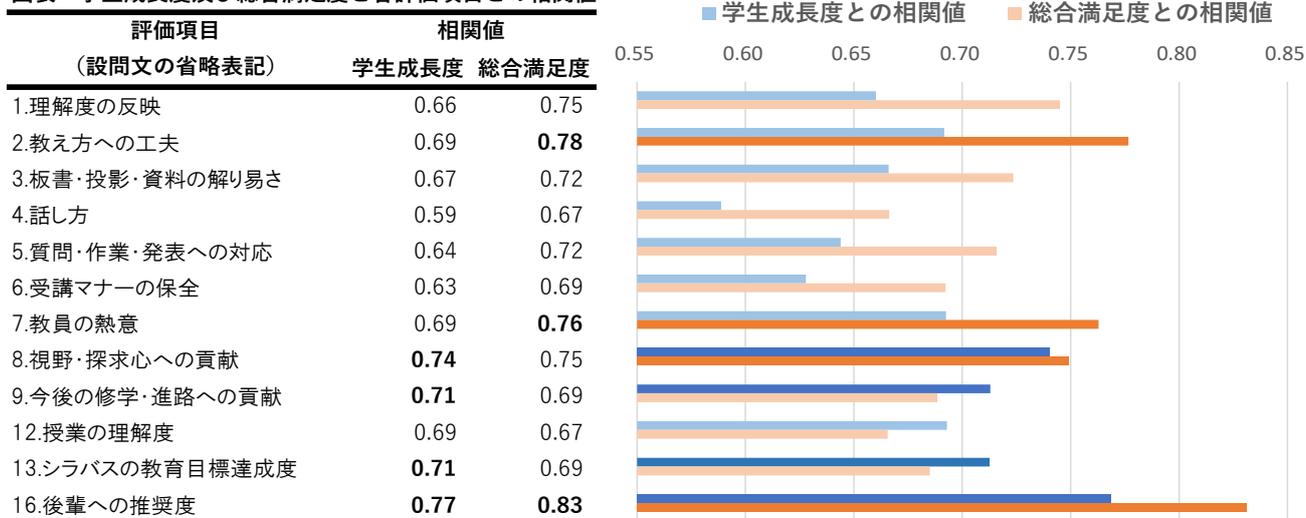
- 1) 自習時間(設問11)の平均値として、半分が対面形式だった2020年後期は1.42だったが、今期は1.09と減少した。オンライン形式が多くなる程、自習時間が増える傾向がみられる。
- 2) 2020年後期と比較し、理解度を測る設問12は3.91から4.06、成長の自己評価を測る設問17は4.09から4.21へ増加した。理解・成長の面では、対面方式が多い今期の方が評価が高い傾向だった。
- 3) 総合満足度の平均値も前回と比較し4.13から4.26へと増加しており、上記2)と同様に対面方式が多い環境の方が満足度が高まる傾向だった。

自習時間以外の主要な評価値が向上している点は喜ばしい結果と言えますが、今回からアンケート収集にCITポータルを利用(前回まではmanaba)しており、3・4年生の回答率が低下していることが影響している可能性もあります。今後の回答率と評価値の推移を注視しつつ、公開授業等を参考にして頂き継続した授業のアップデートをお願い申し上げます。

4 学生成長度・総合満足度に関連する項目の考察

次に授業アンケートにおける主要な評価指標である「学生成長度(設問17)」と「総合満足度(設問18)」を左右すると思われる事項を、その他の評価項目との相関分析によって推定したいと思います。各項目との相関値を算出し、下記の通り表とグラフにしました。

図表 学生成長度及び総合満足度と各評価項目との相関値



(ご参考)過去の分析から「全て同じ選択肢を選択している回答(独立した選択肢を持つ設問を除く)」を除外した際の相関値は0.08~0.12下がりますが、項目内の順位は変わりませんでした。

上記の図表を基に、学生成長度と総合満足度に対し特に関連しそうな事項を以下に記します。なお「後輩への推奨度(設問16)」は上記2項目の学生成長度・総合満足度と同様に、授業の最終評価に類する評価のため、下記の考察からは除外します。

1) 学生成長度に関連しそうな事項

「視野・探求心への貢献」「今後の修学・進路への貢献」「シラバスの教育目標達成度」が特に高い。
⇒当該科目の社会での位置づけ、進学・就職及び後続の科目に対する役割を織り交ぜながらシラバスで修学計画を示しつつ講義することが、特に成長意欲の向上につながると推測される。

2) 総合満足度に関連しそうな事項

「教え方への工夫」「視野・探求心への貢献」が特に高い。
⇒工夫の有無は敏感に察する様子。上記と同様に当該科目の社会での位置づけを解きつつ、教育内容に沿って具体的な創意工夫をすることが、総合満足度向上につながると推測される。

また上記の図表及びその考察によると、「視野・探求心への貢献(設問8)」及び「今後の修学・進路への貢献(設問9)」は、学生の成長・満足度の双方に対して比較的強い相関が認められます。このことから、短期～長期的な学問の位置づけや可能性を折に触れて示すタイミング・題材・提示方法等を研究する価値はありそうです。

5 自習時間が長く総合満足度が高い・低い回答の様子

上記3章で除外した独立した選択肢を持つ設問として、「受講した動機(設問10)」、「成長を感じる事項(設問14)」、「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」があります。本章ではこれらの設問について、特に時間をかけて修学している(「自習時間(設問11)」が4時間以上)中で、「総合満足度(設問18)」が最高/最低の回答を抜き出して傾向を考察しました。これにより、「負荷をかけても満足度の高い学びにつなげるポイント」及び、「熱意を込めても満足度が下がってしまう要因」を探りたいと思います。

表 独立した選択肢を持つ設問における集計結果

No	設問文 (省略表記)	選択肢 (一部省略表記)	該当条件内での割合		
			全体	4時間以上自習	
				満足度最高	満足度最低
10 受講した動機		5 単位をとるため	72.4%	57.2%	87.8%
		4 友達の受講または勧め	1.6%	2.5%	0.0%
		3 先生が面白そう	2.7%	4.5%	0.5%
		2 自分の専門・人生に役に立ちそう	16.4%	29.8%	10.1%
		1 内容が面白そう	6.8%	5.9%	1.6%
14 成長を感じる事項		5 成長した能力はない	11.6%	10.7%	59.3%
		4 技術者としての倫理観	10.4%	11.6%	2.6%
		3 プレゼンテーション能力	9.3%	13.3%	2.1%
		2 自ら継続的に学ぶ能力	18.5%	18.6%	15.3%
		1 社会に必要な教養・基礎力・専門知識	50.2%	45.8%	20.6%
15 理解を深める仕組みや工夫		5 グループワーク・発表	12.3%	32.3%	3.2%
		4 振り返り教材のアップロード	24.9%	21.2%	4.2%
		3 アンケート・小テストでの理解度把握	28.0%	13.3%	11.1%
		2 その他の仕組みや工夫	21.7%	29.7%	5.3%
		1 仕組みや工夫はない	13.1%	3.5%	76.2%
各列に該当する回答の件数：			53,499	1,541	189

まず「受講した動機(設問10)」についてですが、全体の約7割が「単位をとるため」という受動的な選択している中で、長時間自習を行いつつ総合満足度が最高の回答の中には、「自分の専門・人生に役に立ちそう」という講義内容に対する将来的な期待を主な動機として選択している回答が29.8%ありました。さらに「成長を感じる事項(設問14)」に5割が「社会に必要な共用・基礎力・専門知識」と回答しております。これらは4章の考察で挙げた「視野・探求心への貢献(設問8)」と「今後の修学・進路への貢献(設問9)」の手前にある動機といえます。対象の学問の社会的意義・役割をシラバス等の受講前の資料に対して具体的に記述することで、修学モチベーションが高まり、自己成長を感じることができ、総合満足度が高まるというポジティブな波及効果が期待できそうです。

次に「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」ですが、長時間自習×高満足層は「アンケート・小テストでの理解度把握」が少なく(平均28.0%に対し13.3%)、その一方で「グループワーク・発表(32.3%)」「その他の仕組みや工夫(29.7%)」の回答が多かったです。特にこの層では、独自の工夫がなされた能動的な授業がさらなる成長を促している様子が見て取れます。

最後にネガティブな回答にも目を向けたいと思います。4時間以上の自習を行ったものの総合満足度が最低だった回答が、189件と少数ですが存在しました。この層は他と比較し非常に多くの自由回答が記述されており、その多くは「講義の難易度・量に対する授業提供方式のミスマッチ」と「受講システムの判りづらさ」でした。こちらも公開授業・FDフォーラム等で優れた授業提供方式・システムを情報収集頂き、ご自身の授業の課題に合わせた改善を継続的に図って頂けると幸いです。

6 おわりに

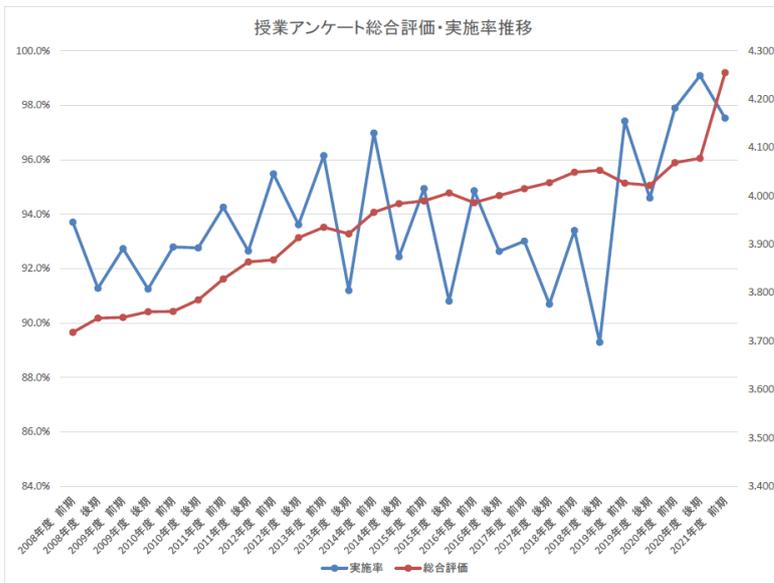
去年度前期は9割、後期は7割程度がオンライン授業となり、今年度前期は7割以上が対面授業に戻りました。この間で先生方が様々な試行錯誤・アップデートを施行頂き、対面・オンラインのいずれの提供方式でも平均で4以上の成長度・総合満足度が獲得できる授業が増えてきました。これは大変喜ばしい結果であり、先生方のご尽力に改めて御礼申し上げます。

一方で5章の後半に記したネガティブなフィードバックも少数ですが存在し、個別の対策が必要なケースも僅かながら散見されます。今後はリアル・バーチャル双方のメリットが享受できるような開講方式がスタンダードになる可能性もあり、授業提供の方法論・システムも日々進化しておりますので、継続的な情報収集・試行錯誤が益々重要になるでしょう。

FD委員会ではこのような環境下においても、本学が掲げる師弟同行・師弟共生の教育目標に沿った質の高い教育が実践できるよう、多角的な視点と多様な情報源から現状を捉え、改善施策を検討して参る所存です。先生方におかれましても、まずアンケート回収率のさらなる向上にご協力頂き、そのうえで授業改善に向けた積極的・継続的な試行錯誤とブラッシュアップをお願い申し上げます。

引き続き、授業アンケートをはじめとするFD活動へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

参考資料



■ 授業アンケート評価点推移 (2008年前期～2021年前期)

年度	実施率	総合評価	年度	実施率	総合評価
2008年度前期	93.7%	3.718	2015年度前期	94.9%	3.990
2008年度後期	91.3%	3.748	2015年度後期	90.8%	4.006
2009年度前期	92.7%	3.749	2016年度前期	94.9%	3.986
2009年度後期	91.3%	3.761	2016年度後期	92.6%	4.001
2010年度前期	92.8%	3.762	2017年度前期	93.0%	4.015
2010年度後期	92.8%	3.786	2017年度後期	90.7%	4.028
2011年度前期	94.3%	3.829	2018年度前期	93.4%	4.049
2011年度後期	92.6%	3.864	2018年度後期	89.3%	4.053
2012年度前期	95.5%	3.868	2019年度前期	97.4%	4.027
2012年度後期	93.6%	3.914	2019年度後期	97.4%	4.053
2013年度前期	96.2%	3.936	2020年度前期	97.9%	4.069
2013年度後期	91.2%	3.922	2020年度後期	99.1%	4.078
2014年度前期	97.0%	3.966	2021年度前期	97.5%	4.255
2014年度後期	92.4%	3.984			

以上